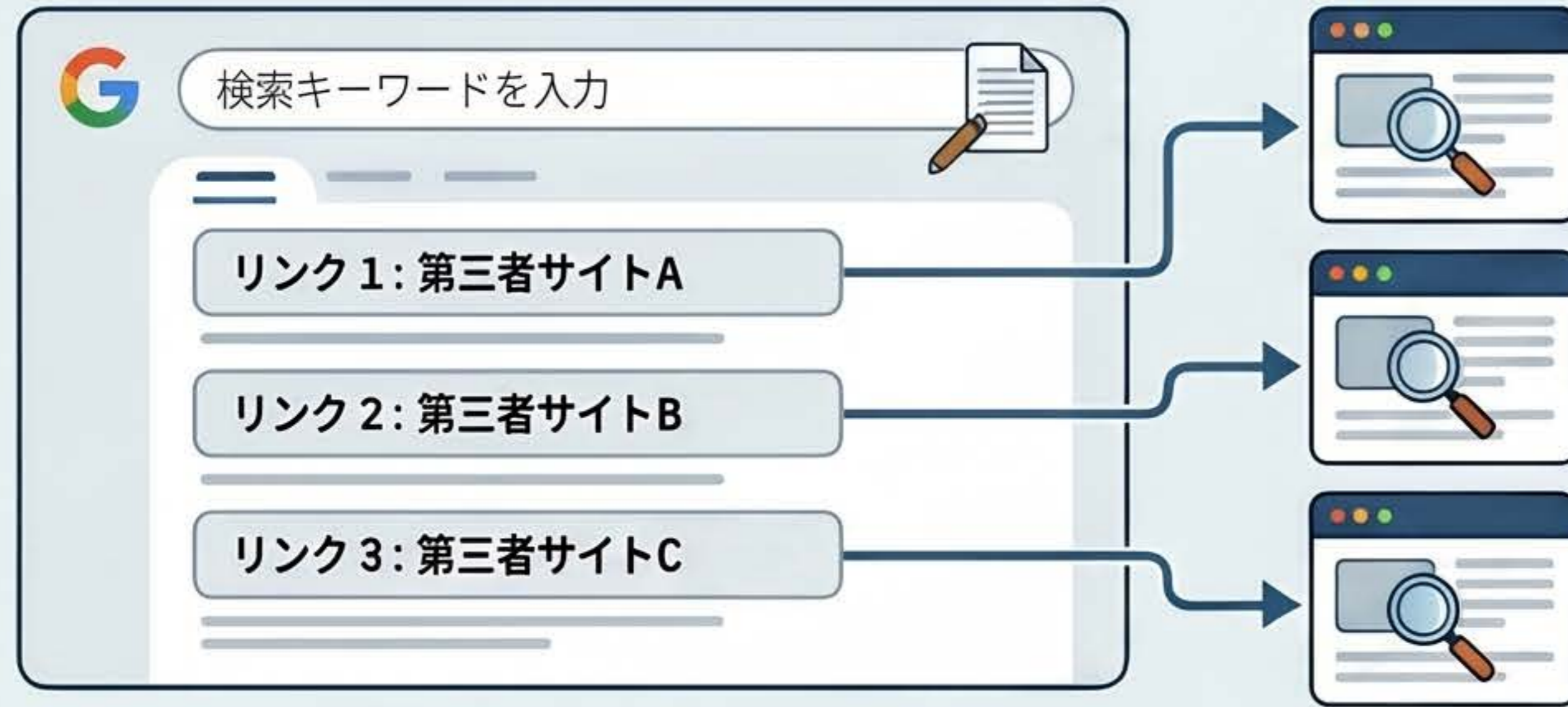


AI検索のパラダイムシフト：Google「AIによる概要」判決が突きつける法的・経済的責任

従来の検索エンジン：中立的な媒介者



出力形態：サードパーティサイトへのリンク提供



AIによる概要 (AI Overviews)：情報発信者



出力形態：第三者の情報を評価・統合し独自の言葉で再構成



**パラダイムシフト：
法的責任の直接的な主体へ**

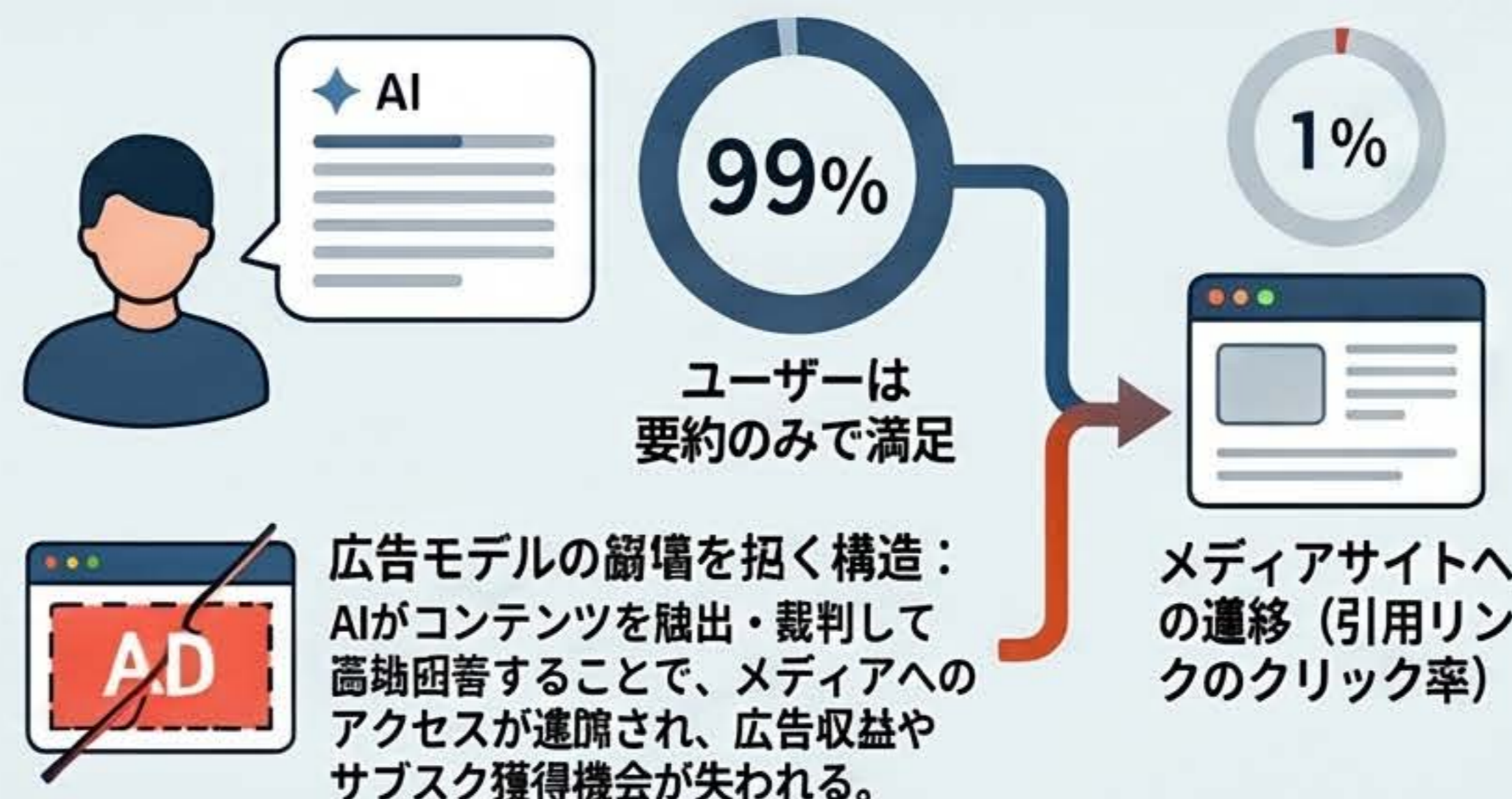
ミュンヘン地裁判決：AIの「ハルシネーション」と法的責任

事例：実在しない「詐欺疑惑」をAIが捏造 判決：Google自身の臆述と認定



裁判所は、AI回答が独自の表現と構造を用いて情報を再構成している点から、第三者の情報の単なる提示ではなくGoogle自身の発言であると定義した。

メディア産業を襲う「ゼロクリック」の経済的脅威



ドイツ国内判例とグローバルな法的包囲網

ミュンヘン地裁	原告勝訴：直接責任あり (名誉毀損)
フランクフルト地裁	Google勝訴：文脈により治癒 (競争法)
ベルリン第2地裁	Google勝訴：技術的枠みの維持 (商標法)



世界で相次ぐAI検索訴訟
Perplexity AI・CNNやHYTから著作権侵害で訴えられるなど、RAG技術による「コンテンツの濫用」への法的包囲網が狭まっている。